

2-3 市内空き家等実態調査と空き家等所有者アンケート調査

2-3-1 これまでの市内空き家等実態調査について

本市では、平成28年度から29年度において市内の空き家等の状況を把握するために、市内の各地域から物件を抽出し、目視により外観調査を行ない、またその所有者に対しアンケート調査を行なっています。

<平成28年度>

平成28年度は、以下の2地域をモデル地域として、空き家等の外観調査及び所有者へのアンケート調査を行ないました。

- ・空き家の発生が顕著な1970年代に造成された大型の新興住宅地のうちから、高齢化率が高く、地域の喫緊の課題として住民主体の取り組みを始めた日吉台学区を選定し、120戸の空き家について調査を行いました。
- ・賑わいを創出するための商業・観光面での活用を目指すことを念頭に置き、中心市街地活性化計画対象エリアである“長等・浜大津・浜町・京町・中央”の一部を選定し、63戸の空き家について調査を行いました。

<平成29年度>

平成29年度は、空家等計画の策定にあたって下記の要領により市域より抽出した空き家及び北部地域に存在する保養所跡地について、外観調査及び所有者へのアンケート調査を行ないました。

- ・都市計画マスタープランによる地域割り及び地域性を考慮した対象地域割りにより、水道の閉栓情報をもとに11地域で各地域20件程度、合計220件を抽出しました。
- ・また、住環境への影響や防犯面での不安等によって地域の喫緊の問題となっている保養所跡地が多数存在する北部地域の市街化調整区域より、建築確認台帳等をもとに現存すると思われる162件を抽出しました。

これらの実態調査等の結果を参考に、本市の課題点や取り組むべき方向性等を整理し、計画の基本方針や推進する対策を検討します。